

週報 第3341回

会 長 杉本 憲一 副会長 中 透
幹 事 細川 嘉則 SAA 川崎 久典

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
T E L 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会 (2026年6月26日) 第3341回

■ プログラム

最終例会・懇親会

■ 次週のプログラム

7月3日: 新年度会長挨拶

■ 今後の予定

■ 祝 誕生日

原 正人(26日)

高寺 寿(29日)

■ 今月のロータリーソング

奉仕の理想

今月の歌

かたつむり

でんでん虫々 かたつむり

お前の頭は どこにある

角だせ 槍だせ 頭だせ

■ 先週の例会

会長の時間



杉本 憲一 会長

日本での誕生日の祝い方は、実はけっこう新しい文化なんですよ。

日本での歴史の流れ

昔は「誕生日」ではなく「年祝い」

日本では長く数え年が使われ、正月にみんな一斉に年を取る考え方でした。

そのため、個人の誕生日を毎年祝う習慣はほとんどなく、代わりに

還暦などの長寿祝い

七五三や元服などの通過儀礼

満1歳の「初誕生日」だけ特別に祝う

といった形で「節目」を祝っていました。

最古の記録としては、奈良時代の光仁天皇の誕生日祝いの例があり、天皇など一部の身分の高い人の誕生日は特別に祝われていました。

西洋文化と戦後の広まり

一般の人が「毎年、自分の誕生日を祝う」という今のスタイルになったのは、かなり最近です。

明治以降、西洋文化の影響で「バースデー」の考え方が入ってくる

ただし、社会全体としてはまだ誕生日祝いは一般的ではなかった

1949年、年齢のとなえ方に関する法律で満年齢が本格的に普及

これ以降、個人の誕生日を意識しやすくなり、家庭で祝う習慣が広まったといわれますさらに戦後、高度経済成長期を通じて

ケーキやプレゼントを用意する

友達を呼んで誕生会をする

といったスタイルが一気に一般家庭に浸透し、現在の「誕生日パーティー文化」が定着しました。

ざっくりまとめると

誕生日そのものを祝う例は、古くは天皇など一部にはあった

庶民の間では、長寿祝いや七五三など節目だけを祝うのが中心だった

一般の人が毎年自分の誕生日を祝うようになったのは、満年齢が普及し戦後の生活が豊かになった昭和中期以降

さて、私が生まれた日1958年8月31日日本での主な出来事は

王貞治の巨人入団決定

1958年8月31日には、日本プロ野球に関わる大きなニュースがありました。

高校球界のスターだった早稲田実業の王貞治投手について、読売ジャイアンツへの入団がこの日に決定したと記録されています。

のちの世界的ホームランバッター王貞治が、プロ野球への一步を正式に踏み出した日という意味で、スポーツ史的にはかなり象徴的な日付です。

幹事報告

細川 嘉則 幹事

○来週6月26日(金)の例会は最終例会になります。

18時30分受付開始、19時開会となりますので、ご注意いただきますようよろしくお願い致します。

○現在の会員名簿ですが、2019年6月1日現在の在籍の会員が掲載されている名簿でございます。それ以降に入会された会員は、シール貼付であったり、掲載されていない状態です。今回、2026年7月1日現在の在籍状況で会員名簿を作成します。情報の更新が必要な方の調査をクラブラインで実施したいと思いますので、ご協力よろしくお願い致します。

委員会報告

○本日例会終了後、みやびの間にて次年度の親睦活動委員会を開催しますので、関係者の方はよろしくお願い致します。

(西端 政博 次年度親睦活動委員長)

○皆さんの各テーブルに、ロータリー・リーダーシップ研究会オンライン RLI 開催のご案内を置かせていただいております。

ロータリー・リーダーシップ研究会は、ロータリーを語り合い、ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立を目的とする大変有意義なプログラムということで、締め切りが7月2日(木)までとなっております。ご興味のある方、参加したいと思われる方は、私の方までご連絡くださいますようお願い致します。

(山本 博章 次年度幹事)

■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数40名 出席免除 0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
6/19	33名	7名	—	82.50%
6/5	33名	7名	6名	97.50%

■ メークアップ

榎本(6/9 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
藤野、森口、根尾、小野寺(5/29 家庭集会)
臼谷(6/4 新旧理事役員会)

■ ニコニコ箱

- ・1年は本当にあっという間でした。皆様、ありがとうございました(杉本)
- ・本日の卓話、幹事の1年振り返りをさせていただきますので、よろしくお願いいたします(細川)
- ・一年間ありがとうございました。40kmトレランで7時間29分で完走、246人中63位でした(川崎)

ニコニコ箱合計	10,000円
累計	711,500円

■ 祝 誕生日

外山 正明 会員(24日)



先週のプログラム ▶ 「一年を振り返って」



杉本 憲一 会長

1年を振り返って

昭和31年(1956年)5月、堺ロータリークラブのスポンサークラブとして府下8番目のロータリークラブとして、泉大津ロータリークラブが誕生しました。それから、70年。

私が当クラブの70周年の会長を受けるに際して、私で良いのか、本当に自問自答しました。この大役を務められるのか。歴代会長経験者から臼谷喜世彦会員が実行委員長を受けるという言葉をいただき、歴代会長も歴史ある泉大津ロータリークラブを今後より

一層発展するように色々と根回しをしていただいたことに感謝するとともに、重責を乗り越えて1年間クラブを引っ張って行こうと決意しました。

まず組閣に関しては、70周年実行委員会、各理事委員長には今後当クラブを引っ張ってくれる若手メンバーを選びました。

事業に関しては、納涼例会、クリスマス家族例会に関して、親睦活動委員会の協力をもとに、開催ホテル、余興を私の方で決めました。

納涼例会の「ちんどん屋」の素晴らしい職業芸、会員の飲食店3店舗のちんどん芸での宣伝興行、クリスマス家族例会では私が所属する「サニーサイドゴスペルクラブ大阪」の私を含むメンバー40名でゴスペルソングを唄いあげました。席から身を乗り出し身振りして、会員のご家族の皆さんを含めた「Oh Happy Day」の大合唱。ステージ後ゴスペルクラブのメンバーからもこんな素晴らしいホテルで日頃の練習の成果を発表できてありがとうございますとお言葉いただき、私自身感無量状態に。

ロータリーの基本である親睦として素晴らしい例会になったのでは。親睦活動委員会の皆様、ありがとうございました。

もちろん、5月24日の70周年記念式典・祝賀会が成功裏に開催できましたことに、何度も何度も委員会を開き内容を協議していただいた実行委員会のメンバーに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

また、記念事業として、市内の3中学の生徒に映画「心の傷を癒すということ」を鑑賞してもらい、阪神大震災で被災した方々への精神科医の心のケアを通じて、心の寄り添いについて考えてもらいました。もう一つ、ピククルボール・コートを泉大津市に寄贈しました。誰でも手軽にできる卓球・テニス・バドミントンの要素を取り入れたスポーツで、毎日市民の方が楽しんでいるのを見ます。市長からも大反響ですよとお言葉をいただきました。

一方、地区補助金の活用により、高齢者の口腔保健事業への支援として、市に口腔機能測定器を贈呈しました。

会長の時間では、泉大津市に関連しての大津川・寺院・だんじりを、趣味のレコード・コレクターのとしての歩み、年間を通じてロータリー月間を中心にお話させていただきました。

泉大津ロータリークラブは地域と共に成長してきました。ロータリー活動としての社会奉仕、職業奉仕を通じて、先輩方が泉大津市の発展にどれほどご尽力されたか。私自身が入会して17年になりますが、先輩方が育てあげてきた創立以来の泉大津ロータリークラブの歴史を振り返り、これからの泉大津市を担う青少年の健全育成、地域医療への支援含め、今年1年会長職を何とか務めあげることができたと感じております。

会場監督の川崎SAA、理事会、クラブ運営に尽力していただいた細川幹事のおかげで、素晴らしい泉大津ロータリークラブの活動が出来ました。ありがとうございました。

八谷事務局員、岸良ピアノ講師もありがとうございました。

最後に、やはり、会員の皆様、本当に1年間ありがとうございました。



細川 嘉則 幹事

皆様、こんにちは。

本日は幹事として、この1年を振り返って一言ご挨拶を申し上げます。

私は2020年7月に泉大津ロータリークラブへ入会いたしました。あれから5年が経ち、昨年7月から杉本会長年度の幹事を務めさせていただきました。

まず最初に、この1年間、杉本会長をはじめ理事・役員の皆様、そして会員の皆様に支えていただきましたことに心より感謝申し上げます。

今の正直な気持ちを申し上げますと、「ようやくここまでたどり着いた」という安堵感でいっぱいです。

というのも、その前年の渡辺会長年度では親睦活動委員長を務めさせていただきました。親睦活動委員長として忙しく過ごした1年の後、今度は幹事としての1年が始まりましたので、振り返ってみると本当に慌ただしい2年間だったように思います。

幹事としての仕事は、実際に年度が始まるかなり前から始まります。

昨年の4月頃から予算の作成や年間プログラムの検討に取り掛かり、会長と何度も打ち合わせを重ねながら準備を進めてまいりました。

「段取り八分、仕事二分」という言葉がありますが、幹事の仕事はまさにその言葉どおりだと実感しました。

例会が円滑に進むように事前に準備を整え、理事役員会での議案を整理し、委員会との調整を行い、時には関係各所との連絡を取りながら進めていく。その多くは表に見えない仕事ですが、その積み重ねがクラブ運営を支えているのだということを、この1年で学ばせていただきました。

さてこの1年を振り返りますと、前年度から4名の退会者がおられ、会員数は40名からのスタートになりました。

今年度は、来週26日の最終例会を含めて延べ45回の例会を開催したことになります。

出席率は、6月5日の42回分までで80.30%となんとか8割を超え、メイキャップを入れますと、5月15日の40回分までで87.44%とほぼ例年通りの出席率を維持しています。年度の初めの会長の時間に杉本会長より「例会が基本」とであるという思いを述べられましたが、我がロータリークラブとしては、内容の充実も図りつつ、この出席率を維持さらには向上させていく意識を常に持つことは重要なことだと思います。

また、理事役員会は原則として毎月第1回目の例会後に開催し、その回数は延べ13回になりました。準備や事後の整理に何かと時間がかかってしまいましたが、毎月の例会や理事役員会を当たり前のよう開催できたのも、理事役員の皆様をはじめ、事務局、そして会員の皆様のご協力があったからこそであり、改めて感謝申し上げます。

さらに今年度は、泉大津ロータリークラブ創立70周年という大きな節目の年でもありました。

加えて、国際ロータリーの定款改正に伴うクラブ定款や細則の見直しもあり、理事役員会での審議事項には本当に事欠かない1年となりました。

その中でも、やはり最大の事業は70周年記念事業だったと思います。

白谷実行委員長のもと、実行委員会の皆様が使命感を持って取り組んでくださり、素晴らしい事業を実現してくださいました。

特に印象に残っているのは、ロータリー歴がまだ浅い会員の皆さんが中心となって、最後の最後まで細部にわたり準備を進めてくださったことです。

式典や祝賀会当日は、多くのご来賓や参加者の皆様から温かいお言葉をいただき、大変高い評価をいただくことができました。

70周年事業については、この後、杉本会長から詳しく振り返っていただけたと思いますので、私からは多くを申し上げますが、この記念すべき年度に幹事として関わることができたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。

また、個人的には12月の臨時総会において、会長ノミニートとしてご指名をいただいたことも大きな出来事でした。

入会してようやく6年を経過したところであります。ロータリー会員としては決して長い経験があるわけではありません。

正直なところ、お話をいただいた時は大いに戸惑いました。

自分に務まるのだろうかという不安もありましたし、

まだまだ学ぶべきこともたくさんあると感じていました。

しかし、皆様からご指名いただいた以上は、その期待に応えたいと思い、覚悟を決めてお引き受けすることにいたしました。

次年度は会長エレクトと会計を務めさせていただきます。

これは私にとって1年間の充電期間であり、学びの期間でもあります。

先輩方からさらに多くのことを学びながら、その次の会長年度を無事に迎えらるよう準備を進めていきたいと思っております。

最後になりますが、この1年間、幹事という大役を務めることができたのは、杉本会長の力強いリーダーシップと同級生という気心が知れた仲あったこと、それにもまして、会員の皆様の温かいご支援のおかげです。

幹事という立場を通じて、改めて泉大津ロータリークラブの伝統の重みと、会員同士の絆の強さを感じることができました。

この経験を今後のロータリー活動に生かし、クラブのさらなる発展のため微力ながら尽力してまいりたいと思います。

1年間、本当にありがとうございました。



川崎 久典 SAA

SAAとして一年を振り返って

1年を振り返るにあたり、まずは杉本会長、細川幹事、各理事の皆様、そして事務局の八谷さん、ピアノの岸良先生、多くの方に支えられた1年であったなと感じています。誠にありがとうございました。

おとしの12月ごろだったと思いますが、杉本さんからSAAをしてくれないかとの打診があり、その時は

よく考えず、割と軽い気持ちで、引き受けさせていただきました。まずSAAとは何ぞやというところからスタートしました。

「SAA」直訳すれば「武器を携帯した軍曹」とでまず、日本では「会場監督」と翻訳されています。ただ司会進行している役割だけではないと感じ、これはちゃんとせなあかんと思いました。

ただ、最初はそんな周りを見る余裕もなく、引き継いだUSBを頼りに司会役をこなしていくことに必死でした。

この引き継ぎのUSBがなかなか優秀で、櫻井さんからはじまり、西端さんでフォーマット化され、中田さん時代を上書きしてこなしていくだけのものでした。

最初のころに、原さんから13時30分にきっちり終わらんとあかんよと言われたことがあり、きっちり時間通りに終わるようにしようと臨みましたが、なかなかうまくいかず、結構時間オーバーしている時もありました。

・岡本さんの卓話の時は30分きっちり時間ほしいと聞いていたのに、会長時間が押してしまい時間が取れなかった

・今井康隆さん(ひつじくん)の卓話はだいぶ時間オーバーしてしまったり

落ち着いて、できるようになってきたのは半年たったぐらいでしょうか。

3月ごろには、前から気になっていた会長の時間や卓話の時のざわつき、例会スタートしても着席されないなど、少し雑然としている感じがしましたので、皆さんにお声がけさせていただきました。

おかげさまで、例会運営もスムーズにいくようになったかと思います。

1年を通してSAAという立場でロータリーに参加させていただいて、ロータリーのことや運営に関して勉強させていただいたと思ってます。

最後にSAAを1年やってみて、副SAAを2～3人いてもよいのではと感じました。

現在、会長、幹事と同じ場所に座っていますが、前を向いているので、うしろの皆さんの状況があまり把握できない、司会役を副SAAでまわし、正SAAは会場入口で遅刻早退の管理、全体を見渡せるようにするなど。あくまで私見ですが。

先日、皆様から引き継いだUSBを次年度SAAの道正田さんにお渡しさせていただきました。次年度は道正田さんらしいSAAを期待しております。

1年間ありがとうございました。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか